

## 松阪・多気地区における転倒災害の発生状況（令和3年9月末現在）

### 1. 災害発生状況

#### (1) 事故の型別（9月末現在）

	R1	R2	R3
墜落・転落	24	32	26
転倒	41	34	50
はさまれ・巻き込まれ	22	17	19
無理な動作・動作の反動	26	16	16
その他	57	60	55
合計	170	159	166

単位：人

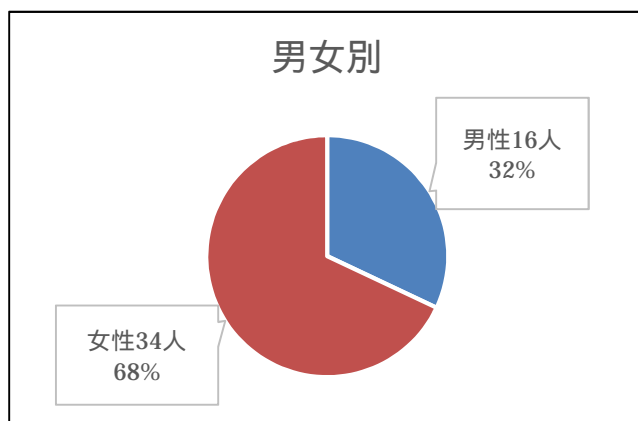
#### (2) 業種別・転倒災害発生状況（9月末現在）

	R1	R2	R3
製造業	6	10	9
建設業	3	1	0
道路貨物運送業	3	0	8
農業・畜産業	0	0	3
小売業	9	10	5
社会福祉施設	8	6	12

単位：人

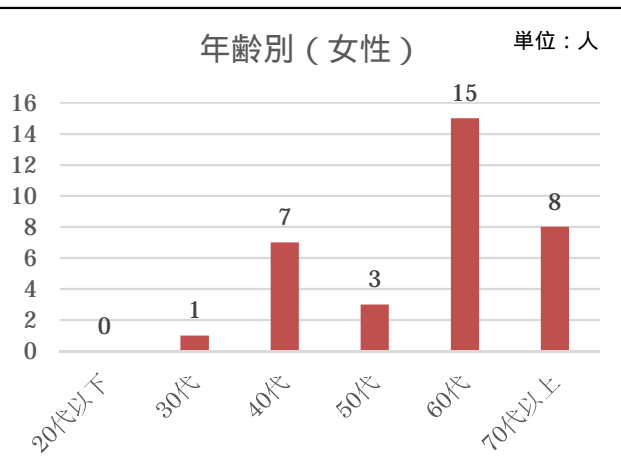
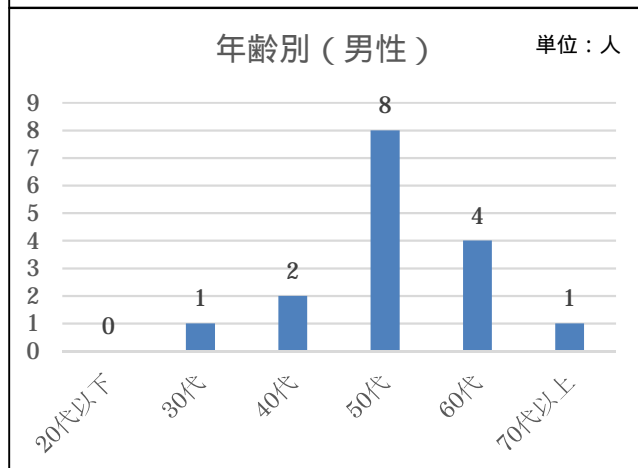
松阪労働基準監督署管内における休業4日以上死傷者数は9月末現在で166人（前年同期比7人増、4.4%増）。その内、転倒災害は50人と事故の型別で最も多く、また、前年同期と比べて16人増（47.1%増）と大幅に増加している。業種別では、道路貨物運送業及び社会福祉施設での転倒災害の増加が顕著であり、小売業では前年同期に比べ半減しているものの、依然として最も多い事故の型となっています。

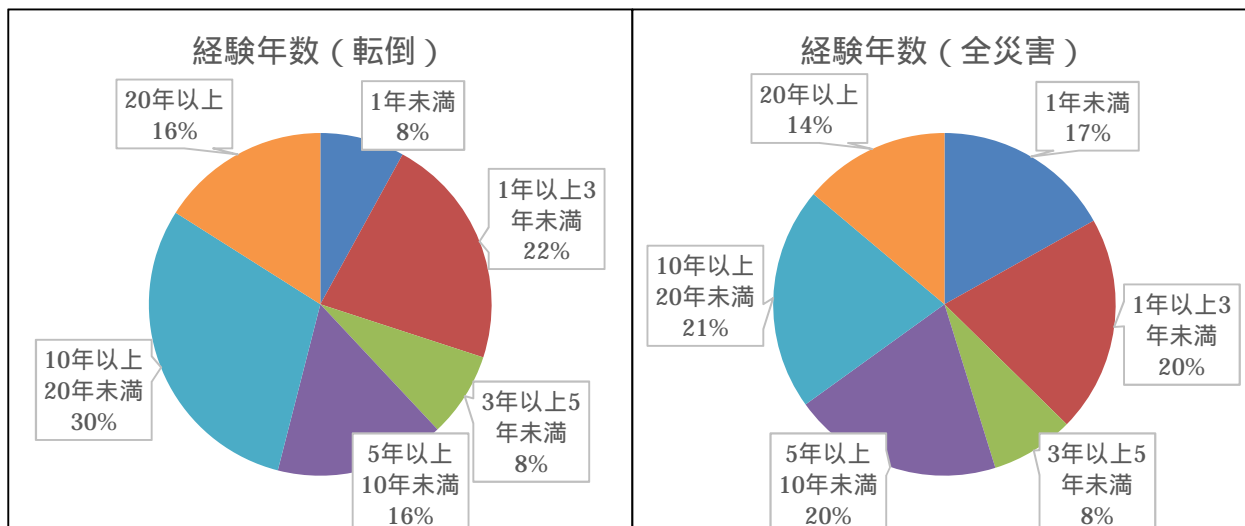
#### (3) 転倒災害の被災労働者について（令和3年9月末現在）



男女別では男性が約3割、女性が約7割と女性に転倒災害が多く、年齢別では男性は50代、女性は60代で最も多く転倒災害が発生し、高齢労働者で転倒災害が多発しています。

男性の被災者16名のうち7名が道路貨物運送業が最も多く、女性の被災者34名では多い順に、社会福祉施設12名、製造業4名、小売業4名となっています。

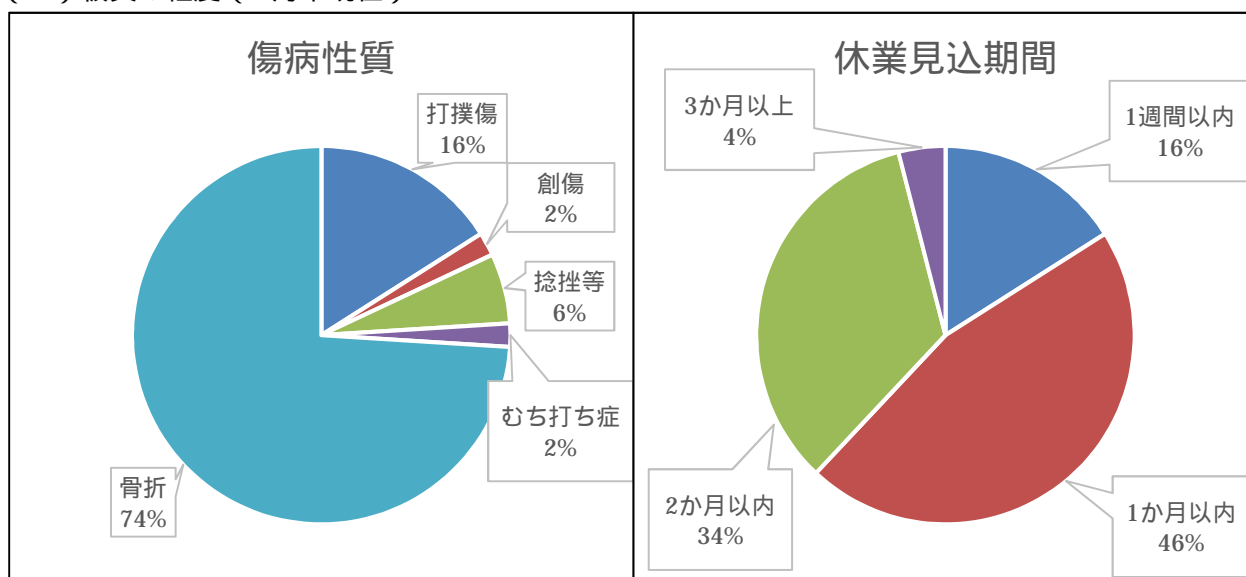




経験年数では、3年未満のいわゆる未熟練労働者による転倒災害は20%と災害全体に占める未熟練労働者の割合37%の約半数となっている。これに対し、経験年数10年以上のベテラン労働者による転倒災害は46%と災害全体に占めるベテラン労働者の割合35%を上回っている。

転倒災害が未熟練労働者に少なく、ベテラン労働者に多いことは、転倒災害が高年齢労働者に多いことに関連するものと思われます。

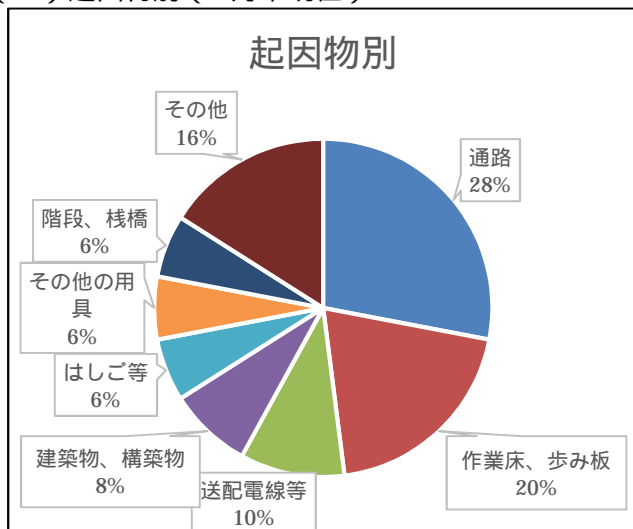
#### (4) 被災の程度（9月末現在）



転倒災害の内、骨折を伴う負傷は74%、休業1か月以上を要する災害が84%となっており、転倒災害とはいえ、重大な災害につながりかねないことが分かる。なお、3か月以上の4%（2件）は休業見込期間6か月となっています。

なお、骨折を伴う転倒災害の内、胸部・背部等の骨折が24%、手・指・腕の骨折が30%、足の骨折が35%となっています。

(5) 起因物別 (9月末現在)



**送配電線等**  
 引込線、屋内配線、移動電線等の電線類等。

**建築物、構築物**  
 建築物とは木造、鉄骨造、鉄筋鉄骨コンクリート造等の建築物、建造中の船舶等。構築物とは、堰堤、ずい道、橋梁、地下構築物、よう壁、タワー等。

**その他の用具**  
 はしご等や玉掛用具に分類されないロープ、万力、パレット等。

事故の型別では、「通路」や「作業床、歩み板」に起因する災害が合計で24名(48%)と最も多く、この24名中13名が通路や床面が濡れていたため滑って転倒するという災害でした。床の水たまり等はは放置せず、その都度取り除くようにしましょう。また、耐滑性のある靴を選びましょう。

「送配電線等」5名(10%)は、機械や設備から伸びた電線やコードに足を引っかけて転倒するという災害でした。固定できる電線やコードは固定の上、目につくように表示をしたり、一時使用など固定できないものについては、使用后、放置しないようにしましょう。

「建築物、構築物」4名(8%)は、建物の段差や駐車場の車止めなどに躓き転倒するという災害でした。段差など躓きの原因となる箇所は、段差等を解消するか、解消できない場合は目につくような表示をするなど危険の見える化により転倒災害を防止しましょう。

これ以外にも、「バランスを崩し」「足がもつれて」「何もない場所だが」転倒するという、原因が不明な転倒災害も散見されました。これについては、加齢による筋力の低下や転倒予防のための安全衛生教育の不足が考えられます。

その他、以下のチェックリストや裏面を参考に職場における転倒災害防止に努めてください。

転倒の危険をチェックしてみましょう！			
1	通路、階段、出口に物を放置していませんか	6	段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていますか
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	7	ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか
3	通路や階段を安全に移動できるように十分な明るさ(照度)が確保されていますか	8	ストレッチや転倒予防のための運動を取り入れていますか
4	靴は滑りにくくちょうど良いサイズのものを選んでいますか	9	転倒を予防するための教育を行っていますか
5	転倒しやすい場所の危険マップを作製し、周知していますか		

## 整理・整頓 清掃・清潔

見た目にきれいなだけでなく、つまづいたり転んだりすることも減りました



厚生労働省のホームページで4S（整理・整頓・清掃・清潔）の方法を公開しています。



## 危険の見える化

危険の原因が誰から見てもわかるので、事故やケガが減りました

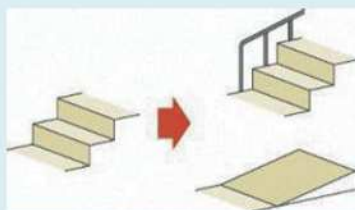


職場のあんぜんサイト『危険箇所の表示等の危険の「見える化」』を参考にしてください。



## 設備の改善

滑らず蒸れない靴のおかげで快適！  
手すりの設置や段差を改修して安心！



職場環境の改善等のために、エイジフレンドリー補助金をご活用ください。



## 転倒・腰痛 予防体操

足を前に



足を後ろに



YouTubeで、転倒・腰痛の予防に役立つ「いきいき健康体操」をご覧ください。

